

## 第29回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和元年8月6日（火）13:30～13:51

2. 場 所 中央合同庁舎8号館6階623会議室

3. 出席者 内閣府原子力委員会

岡委員長、中西委員

内閣府原子力政策担当室

十時審議官、竹内参事官、笠谷参事官補佐、岩坂政策調査官

4. 議 題

(1) アジア原子力協力フォーラム（FNCA）第20回上級行政官会合（SOM）の結果報告について

(2) その他

5. 配布資料

(1) アジア原子力協力フォーラム（FNCA）2019上級行政官会合（SOM）の結果概要について

6. 審議事項

(岡委員長) それでは、時間になりましたので、ただいまから第29回原子力委員会を開催いたします。

本日の議題ですが、一つ目がアジア原子力協力フォーラム（FNCA）第20回上級行政官会合の結果報告について、二つ目がその他です。

本日の会議は14時を目途に進行させていただきます。

それでは、事務局から説明をお願いします。

(竹内参事官) それでは、議題1でございます。

原子力委員会は、アジア原子力協力フォーラム、FNCAとっておりますけれども、こちらの事務局を務めております。本日は、先月開催されましたアジア原子力協力フォーラム

(F N C A) 第 2 0 回上級行政官会合の結果報告についてでございます。

事務局から説明をお願いいたします。それではお願いします。

(笠谷参事官補佐) 御説明いたします。参事官補佐の笠谷でございます。

F N C A、アジア原子力協力フォーラムは、2 0 0 0 年 4 月に発足しており、このアジア地域での積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的發展を促進することを目指して発足しております。こちらの方は、日本を初めオーストラリア、中国、韓国、バングラデシュ、あと東南アジア諸国とその 1 2 か国から構成されております。

このアジア原子力協力フォーラムの方は、日本が事務局、我々原子力委員会のこちらの方が事務局をやっております、年間通して、毎年 1 2 月頃には大臣級の会合、また、3 月頃にはスタディ・パネルといって、テーマを決めた少し勉強会的なもの、そして、今この夏のタイミング、本日御報告させていただきますのは、上級行政官会合ということで、そういう省庁の上級の行政官の方が集まって行う会議でございます。そちらの方の結果の概要を報告させていただきたいと思っております。

資料の 1 ページ目からでございますが、先月の 7 月 1 9 日に行われております。それで参加国が、先ほど申し上げましたとおり、一応、全 1 2 か国が参加しております。

我が国の主な出席者は、こちらにおります十時審議官、十時審議官は議長としても参加されております。また、竹内、北郷両参事官が参加しております。

会議の概要といたしましては、先ほど申し上げたとおり、今年 1 2 月に行われる予定の大臣級会合の予備的な議論を行う場として行っており、後で申し上げますが、その大臣級会合のテーマ等を決めております。

それでは、会議の概要の(1)でございます。

大臣級会合、スタディ・パネルに関連する事項ということで、まず決定事項の一つ目といたしましては、今年の恐らく 1 2 月に開催する大臣級会合の円卓討議でのテーマについて検討いたしました。

①でございますが、これは、事前に参加国にどういうテーマを希望するかというのを、ある程度、何個か候補を絞って我々事務局がサーベイをしておるのですが、それで、最も支持を集めました「健康、医療への放射線技術の利用」、これ結構、例年、割と票が割れることが多いのですが、今年は割とこの「健康、医療への放射線技術の利用」というのが割と票が、結構集中していたということもありまして、これにある程度すんなりと決まりました。

②でございますが、このトピックのもとに、サブトピックといたしまして、「放射線医療分野の政策と課題」、「放射線腫瘍治療に関する先端技術状況」、「FNCAプロジェクトで開発された子宮頸がん臨床治療法を含む放射線医療技術及び技能の現状と問題」ということで、これらの三つのサブテーマを選定いたしました。

それぞれのサブテーマについては、それぞれ各国がプレゼンテーションを行うことによりまして、順番に、カザフスタン、日本、タイがサブトピックを担当いたします。

カザフスタンが、一つ目のこの「政策と課題」についてやる理由といたしましては、カザフスタンの方で、こういうことに関する国家プログラムを進めておるといふことがありまして、その事例について紹介していただく。

我が国が「放射線腫瘍治療に関する先端技術状況」について報告いたしましたのは、我が国は、重粒子線治療とか、そういうような重粒子線とか、そういうような機器を用いた放射線治療医療の方が進んでおりますので、その紹介をさせていただきます。

そして、最後、タイの方から、「FNCAプロジェクトで」というのは、こちらの方で、タイの方では、これらの子宮頸がんの臨床治療法のものが結構普及度が高いということを知っておりますので、その状況をタイから報告していただくという予定でございます。

また、円卓会議のトピックに関する基調講演につきましては、基調講演、まだ候補はこれから選定するのですが、例えばWHOですとか、IAEAなどから基調講演の派遣者の調整を行うことによりまして。

③でございます。また、日本側からも基調講演を行うのですが、これらの上記の議題をやるとともに、我々の方から原子力分野に関する人材育成についての問題提起を行いまして、それぞれ大臣級会合の方では、カントリーレポートで、各国からそれぞれの原子力分野の状況を報告するのですが、その中に人材育成の状況についても触れていただくよう要請をいたしました。

以上でございます。

2ページ目でございます。

決定事項-2、2020年スタディ・パネルのトピックについて。これは、先ほど申し上げました毎年3月にスタディ・パネルということで、それぞれ専門家を集めて、少しテーマを決めて勉強会をやっております。そのトピックについても検討いたしました。

そのトピックとしては、この間、2017年から今年の3月まで、割と原子力法制の話が多くて、原賠とか、そういうふうな原子力法制分野のトピックをやってきたこともあるので

すが、それを3回くらいやったこともあって、一つテーマを切り替えてというか、また新しいテーマとして、今回は「核同位体技術と気候変動科学」を取り上げることといたしました。

具体的には、気候変動とその社会的経済的影響を核同位体技術の切り口から「水圏」「陸、土壌」及び「食品と農業」の三つのサブトピックについて討議することが合意されました。

このFNCAでは、今、七つのプロジェクトをそれぞれ進めておるのですが、そのうちこの気候変動科学については、オーストラリアが割とスポンサーというか、予算的な負担もしていただいて、スポンサーとなっていることもありますので、この分野、非常にオーストラリアは知見があるということもございますので、このスタディ・パネルの講演者ですとか、そういうところは我々事務局とオーストラリアの方で今後調整しながら準備する予定でございます。

また、スタディ・パネルと大臣級会合のテーマのほかに、今回の会議で決まったことですか確認されたことを紹介いたします。

確認事項としては、一つ目に昨年的大臣級会合の成果というか、それぞれどうだったか。この会議の議題とか成果、運営などがどう各国から評価されているかということを確認いたしまして、おおむね前年比同等以上の評価を得たことが確認されました。

二つ目は、こちらの方は、MLM、先ほど今年12月の大臣級会合は放射線医療ということがテーマということになりましたが、研究炉利用についても、それなりのトピックとしての強い採択要望がありましたので、これが次年度以降の候補として記録いたしました。

三つ目といたしましては、スタディ・パネルについてですが、こちらの方も前回、今年3月に開催されましたスタディ・パネルの評価等について、評価、各国のコメントについて紹介を行いました。こちらの方もトピックの重要性の認識及び各国が得た教訓などの点で参加国から大変高い評価を得ることができております。

④でございますが、スタディ・パネルの方のテーマも引き続き「原子力防災」ということが、支持がそれなりにありましたので、こちらの方も次年度以降、テーマの候補として引き続き残していくということが確認されております。

(2)でございます。FNCA表彰ということでございまして、FNCA表彰というのは、こちらの方は、今、3回目なのですが、先ほど私、FNCA、今、プロジェクトをそれぞれ進めているということはあったのですが、プロジェクトの方、七つ進めておまして、それぞれ全てのプロジェクトが12か国参加しているわけではないのですが、一つのプロジェクトに最大12か国が参加しているということもあって、7掛ける12の最大84の中から、

それぞれのテーマのうち、それぞれの国、一番優秀なチームに対して表彰するというのを、一昨年から行っております。

それで、まず今年度3回目になるのですが、そのFNCA賞の選考について議論いたしました。

まず選考といたしましては、本年の5月より開催しております、先ほど七つプロジェクトがあると申し上げたのですが、その七つのプロジェクトの中で、それぞれどの国がいいか。例えばこのプロジェクトについてはカザフスタンであるとか、このプロジェクトについてはベトナムであるとかということで、まず一次選考で七プロジェクトごとに一番いい国、つまり7チームを選びます。そして、7チームについては、各国の研究プロジェクトを見ているコーディネーターによって、最終的に投票を行いまして、以下の3チームを最優秀賞、優秀賞として決定いたしました。

年間の最優秀研究チームといたしましては、放射線加工・高分子改質ということでカザフスタンが選ばれております。年間優秀研究チームといたしましては、放射線育種でベトナム、放射線安全・廃棄物管理でオーストラリアが選ばれております。

少し簡単に申し上げますと、まずカザフスタンのチームは、要は、放射線を利用いたしまして、アブソバンス、吸収剤も、普通の吸収剤よりももっといい吸収剤、彼らはスーパー・アブソバンス、スーパーと書いてありましたが、スーパー吸収剤を開発したということございまして、これらを用いることによって、農業分野での貢献、特に彼らの小麦の収量が25%アップしたということで、非常にそういう放射線利用によって、そういう農業生産に裨益しているということです。

次の放射線育種のベトナム、これは放射線育種によって、米の品種改良に成功した。DD80という米を作って、それらは非常に病気に強いとか、非常に早く開花するとか、非常に料理がしやすいということで、放射線育種によって、米を作ったということございまして。

放射線安全・廃棄物管理、オーストラリアでございまして、これは彼らの方で低レベルの廃棄物の仮処分場を作っているのですが、そのプロセスを合理化することによって、処分プロセスを合理化することによって、例えば低レベル廃棄物の動きを少なくするとか、作業の動線をよくするとか、そのようなことをすることによって、非常にそういう合理的な運営ができるような施設を造ったということで表彰しております。

これらの三つのチームが内定というか、内定したのですが、一応、この最優秀チームのカザフスタンは、今年12月に開催される大臣級会合に招聘いたしまして、記念スピーチを行

っていただく予定でございます。

次は、3ページ目でございます。

次回のMLM大臣級会合の準備状況についても確認を行いました。本年12月に開催予定の東京開催の会合アジェンダ（案）が説明され、了承されております。基本的には12月4日の午後から事前準備会合、歓迎レセプション等を行って、12月5日に大臣級会合を行う予定でございます。

(4)でございます。来年以降のMLM開催地についてでございます。

基本的には、FNCA会合は、先ほど12か国が参加しているという話をしたのですが、基本的には、開催地は東京と、それぞれ中国ですとかフィリピンですとか、東京と外国で交互に持ち回りというか、東京でやって、外国でやってということなのですが、基本的には、今、2021年がモンゴルでやる予定となっております。また、今のところ、来年もまだ東京の予定ではあるのですが、一応、各国に対しては、来年ホストする用意があるかということとを今、打診しているところでございます。

また、先ほど申し上げましたように、大体、2000年にこれ、発足いたしまして、19年ということで、ほぼほぼ一回りしつつありますので、今後の会議の持ち回り方式等についても、今年12月の準備会合で話し合う予定でございます。

雑駁ではございましたが、私の方からの報告を終わります。

(岡委員長) ありがとうございます。

それでは、質疑を行います。

中西委員からお願いします。

(中西委員) どうも御説明ありがとうございました。

このFNCA、アジア原子力協力フォーラムというのは、すごく歴史が古くて、原子力委員会が担当するものの中で、開催するものの中で唯一のフォーラムかと思えます。その前も原産が随分そういったことをしていたり、アジアの関係が非常に保たれてきたことだと思います。

今回は、大臣級会合とスタディ・パネルの間の上級行政官会合なので、全体の方向を非常によく議論されたのではないかと思います。高い評価をいろいろなところで受けているので、うまくいっているなという気がするのですが、今回、SOMでは、どういうことに取組むかということで、「健康、医療への放射線技術の利用」を決められて、これ、とてもいいことだと思うのですが、この下といたしますか、サブグループのスタディ・パネルの

方からは、核同位体の話、「核同位体技術と気候変動」とか、それからあと原子力防災とかが上がっているのですけれども、この中核のSOMの今回決めた放射線、医療分野の政策と課題と、スタディパネルの関係性を教えていただけますか。七つプロジェクトの結果をもう少しまとめて、このSOMで課題とするのか、SOMの課題をもう少しブレイクダウンしていくのかとか。

(竹内参事官) まずスタディ・パネルの方は、これは個別に毎回ごとに勉強したい案件を、これはアジアの国の希望を取って、基本的にはその希望に基づいて議論して決めるというものになっています。

他方で、FNCAの方向性を決めたり大きな議論をしていくのは大臣級会合であるので、大臣級会合のテーマとして、どういうものややっていくかということをもSOMで決めるというふうになっております。

そういう観点からすると、上級行政会合とFNCAの大臣会合というのはリンクして、それが具体的な活動に反映されていくと。パネルの方は、確かにそれと関連があった方がいいというふうなこともあるのですけれども、これ、むしろ別個、個別に毎回勉強をするものになっているということですので、今回の大臣級会合では、まず基調講演においては、「健康、医療への放射線技術の利用」と、それから人材ということになったので、その大臣級会合で結果がまとまったことに基づいて、今後の活動を動かしていく。そういうふうになっているところでございます。

(中西委員) スタディ・パネルの方はもっと俯瞰したところを勉強するということですね。分かりました。以上です。

(岡委員長) よろしいでしょうか。ありがとうございます。

事務局が、非常に精力的にお仕事をされて、順調にといいますか、成果がたくさん上がっていると思います。

それで、「健康、医療への放射線技術の利用」という、今までと違う、「放射線医療分野の政策と課題」ですか。こういうものが次のプロジェクトのテーマに上がっている。皆さんの関心の高さというか、今後の方向と我々の考えていたテーマに合っていて、重要な活動が行われるというふうに思います。

それから、質問ですけど、気候変動科学のプロジェクトが、関心が高い、スタディ・パネルにあったのですが、「スポンサーとなっており」と書いてありますが、このスポンサーというのはどういう意味のスポンサーでしょうか。

(笠谷参事官補佐) お答えいたします。

F N C Aの我々、例えば大臣級会合では、上級行政官会合とか、そういうふうな予算的なところというのは、全体的には内閣府が見ているのですが、それぞれのプロジェクト、先ほど七つあるというふうに申し上げたのですが、それぞれ七つのプロジェクトは、毎年、年に1回ワークショップというのを開催しております。それぞれのプロジェクトのリーダーが集まって、それぞれのプロジェクトの中で参加12か国が集まるワークショップというのをやっております、そのワークショップの費用を、そのときには、そちらの方は、省庁としては文部科学省の方が見ておるのですが、ただそのうち六つは文部科学省が見ていて、そのうち一つの気候変動の分野については、オーストラリアの方がそのワークショップの方の予算を見てくれているということでございます。

ただ、F N C Aの予算というか、プロジェクトは特にF N C Aが直接研究費用を払うものではなくて、研究費用はそれぞれが、研究は自分たちがやって、そういうワークショップで集まったり、情報交換のための費用を日本ないしオーストラリアが見ている。予算的には見ている。スポンサーといたしますか。そういうオーナーシップ予算のお話をしているということでございます。

(岡委員長) ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。

関連で、人材のことをちょっと述べられていますけど、各国から、アジア各国から日本に留学した学生の方も多いのですが、そういう方のチャンネルというのをまた日本としては生かしていく必要があると思うので、ここでまた人材育成の話も少し出ているというのも、今後の活動の展開に役に立つというふうに思います。

そのほか御質問ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございます。

議題1は以上です。

議題2について事務局から説明をお願いします。

(竹内参事官) 次に、今後の会議予定について御案内いたします。

来週はお盆のため1回お休みとさせていただきます、次回、第30回原子力委員会の開催につきましては、8月20日13時半から、場所は、8号館6階623会議室。議題は調整中で、後日、原子力委員会ホームページ等の開催案内をもってお知らせいたします。



(岡委員長) ありがとうございます。

その他、何か御発言ございますでしょうか。

それでは、御発言ないようですので、これで本日の委員会は終わります。ありがとうございました。